

こだわりスポット NATURAL

お好み焼き 伸

今回、ご紹介するこだわりスポットは「お好み焼き 伸」です。富田林市梅の里の住宅街にあるこのお店は、洋風レンガ造りの外観がとても可愛くて、どちらかといえば「お好み焼き」というより「カフェ」の雰囲気。店内は、お好み焼き屋さんの独特な脂っぽい匂いも感じなくて、ウッドデッキのテラスから気持ち良い日差しが入ってきて、とてもいい感じですよ。

オーナーの小林信子さんは、7年前に自宅の一部を改装してお好み焼き屋さんを始められました。お店の名前は「伸」。亡くなられた御主人のお名前からつけられたそうです。今までは、おいしい物であれば何でも、無頓着に食べられていたようですが、大切なご家族を亡くされたことをきっかけに、「安全で人に優しいお好み焼きをゆっくり食べてほしい」と、使われる食材に気を使われています。

こだわりは鉄板にも表れていて、顔が映りそうなくらいピカピカの鉄板は、お客様が触っても手が汚れないくらいにその都度磨きあげられ、鉄あかも鉄さびも全くなく7年も使われているのかと思えないほどの綺麗な状態を保っています。「オープン当初は、お客様に自由に焼いてもらっていましたが、お好み焼きも鉄板も一番良い状態でサービスしたいので…今は、焼いて出し



このコーナーは「NATURAL」と題して、自然を愛し、自然にこだわり、そして自然体で活躍されている人々を紹介していきます。

ています」とにっこり微笑まれた小林さんのカリッカリッでふわふわの優しいお好み焼きは、まぎれもなく本物です。

「お勧めはなんですか?」との問いに、「人それぞれの好みがあるのでよくわかりませんが、やはり定番のイカや豚のお好み焼きが美味しくないとダメですよ」と、さすが、粉もん好きの関西人にはたまらないお言葉!!

もちろん、お好み焼きのお供に相性抜群の五穀米のおにぎりが美味しいのは言うまでもなく…炭水化物、最高(*^_^*)



お好み焼き 伸
〒584-0001
富田林市梅の里1丁目3-3
電話0721-24-1476
営業時間 ●ランチタイム 11:30~15:00
●ディナータイム 17:00~20:00
定休日 月曜日
駐車場有

このコーナーは、美原区にお住まいの方及び美原区内にお勤めの方を対象に、実施されているイベントなどをご案内するものです。

みはらトピックス

お花見案内

お花見には最高の季節になりました。皆さまは、どこかに行かれたか? 有名なお花見スポットは、お花も綺麗だけれども多くて、ゆっくりとお花を楽しむことがなかなかできませんね (-) こんな時は、地元の隠れたお花見スポットを探して、ゆっくりと春を感じるのも乙なものかもしれません。

工場団地近くの住宅地「さつき野」にちょっとした桜の名所があるのでご案内します。また、桜が役目を終わった頃にあでやかに登場する「つつじ」の名所が美原にはあるので併せてご案内します。

◎桜のお花見スポット
さつき野西2丁目3番地付近
さつき野西3丁目10-1 さくら公園
小寺12-1 大池公園

◎つつじのお花見スポット
今井192 法雲寺



だれにでも守りたいものがある
だからこそ身近で手頃なセキュリティを
機械警備から総合メンテナンスまで…
〈安心と安全〉で確実な警備を提供いたします

東洋テック株式会社

〒590-0953 堺市堺区甲斐町東1丁目1番17号
南大阪支社 / TEL.072-221-0753

堺歴史探訪

もののはじまりは堺・・・という言葉もあるように、堺にはさまざまな分野で偉大な足跡を残し、今もさん然と輝きを放つ先人たちが多くいらっしゃいます。今回から、「堺歴史探訪」と題して、堺の偉人達を紹介していきます。第一回は「与謝野晶子」さんにスポットをあて、彼女の生涯を5回にわたり紹介する予定です。

与謝野晶子ってどんな人?

連載1回目の今回は、与謝野晶子の生涯を5つの側面から分かりやすく紹介したいと思います。

(1) 名前 ~「晶子」ではない?~

与謝野晶子は、明治11(1878)年12月7日、堺区(現在の堺市堺区)甲斐町に、鳳宗七(ほうそうしち)の三女として生まれました。晶子という名はペンネームで、戸籍名は、「志(し)よう」です。家庭内では、「おしょとはん」と呼ばれて育ちました。

(2) 夫・鉄幹との出会い・結婚

堺女学校(現、府立泉陽高等学校)を卒業した晶子は、生家の和菓子商・駿河屋の仕事を手伝いながら日々を過ごしました。短歌をつくり始めたのは、この頃で、16、7歳くらいの時でした。明治33年8月、晶子22歳の時、与謝野鉄幹(本名、寛(ひろし))が、東京から関西にやってきます。晶子は、この時はじめて鉄幹に出会い、浜寺公園や住吉大社などで遊びます。その後、二人は恋に落ち、明治34年6月に晶子は上京、9月に結婚します。



▲晶子肖像(文化学院提供)

(3) 生涯に5万首をつくられた大歌人

晶子は、明治34年8月、第一歌集の『みだれ髪』を刊行します。恋愛の喜びや女性の身体の美しさを、旧習にとらわれず自由に歌った短歌は、人々に大きな影響を与え、日本の短歌に新風を吹き込みました。晶子は晩年まで短歌をつくり続け、生涯に約5万首をつくられたといわれています。



▲歌集『みだれ髪』(堺市蔵)



▲歌集『常夏』(堺市蔵)

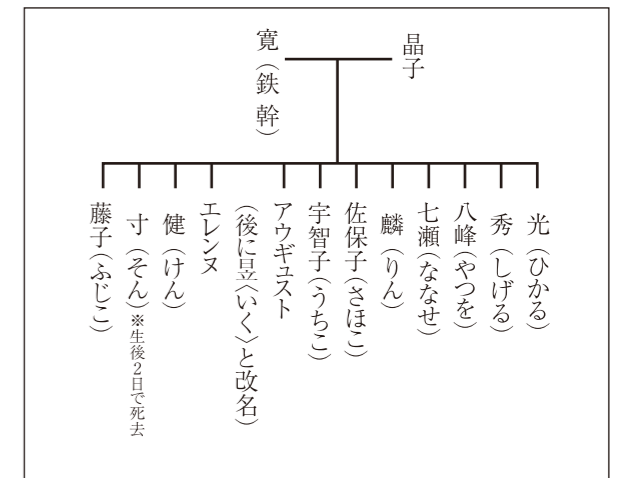
(4) 11人の子を育てた晶子 ~鉄幹も育メンだった?~

鉄幹と結婚した晶子は、子どもに恵まれ、13人の子を生み、11人の子を育てました(1人は死産、1人は生後2日で死去)。鉄幹も子どもをお風呂に入れるなど子育てに協力的で、今で言う育メンだったと言えることができるかもしれません。なお、与謝野馨経済財政政策担当大臣は、二男の秀(しげる)の長男であり、鉄幹・晶子の孫にあたります。

(5) 古典研究家・評論家・教育者

このほかにも、晶子は様々なことに取り組んでいます。『源氏物語』の全巻を日本で初めて現代語に訳したのは晶子です。また、幅広い社会問題についての評論を執筆し、生涯に15冊もの評論集を刊行しています。さらに、1921(大正10)年には、私立学校・文化学院の創設に携わり、個性を尊重する教育にも力を注ぎました。

昭和10(1935)年、鉄幹が亡くなります。悲しみの中、晶子は最後の仕事として、3回目となる『源氏物語』の現代語訳に取り組み、昭和14(1939)年に完成させ、昭和17年5月29日に亡くなりました。



▲家系図



▲晶子愛用の鏡台(堺市蔵)



▲『新新訳源氏物語』
自筆原稿「桐壺」冒頭(堺市蔵)

(堺市文化課・足立匡敏氏)